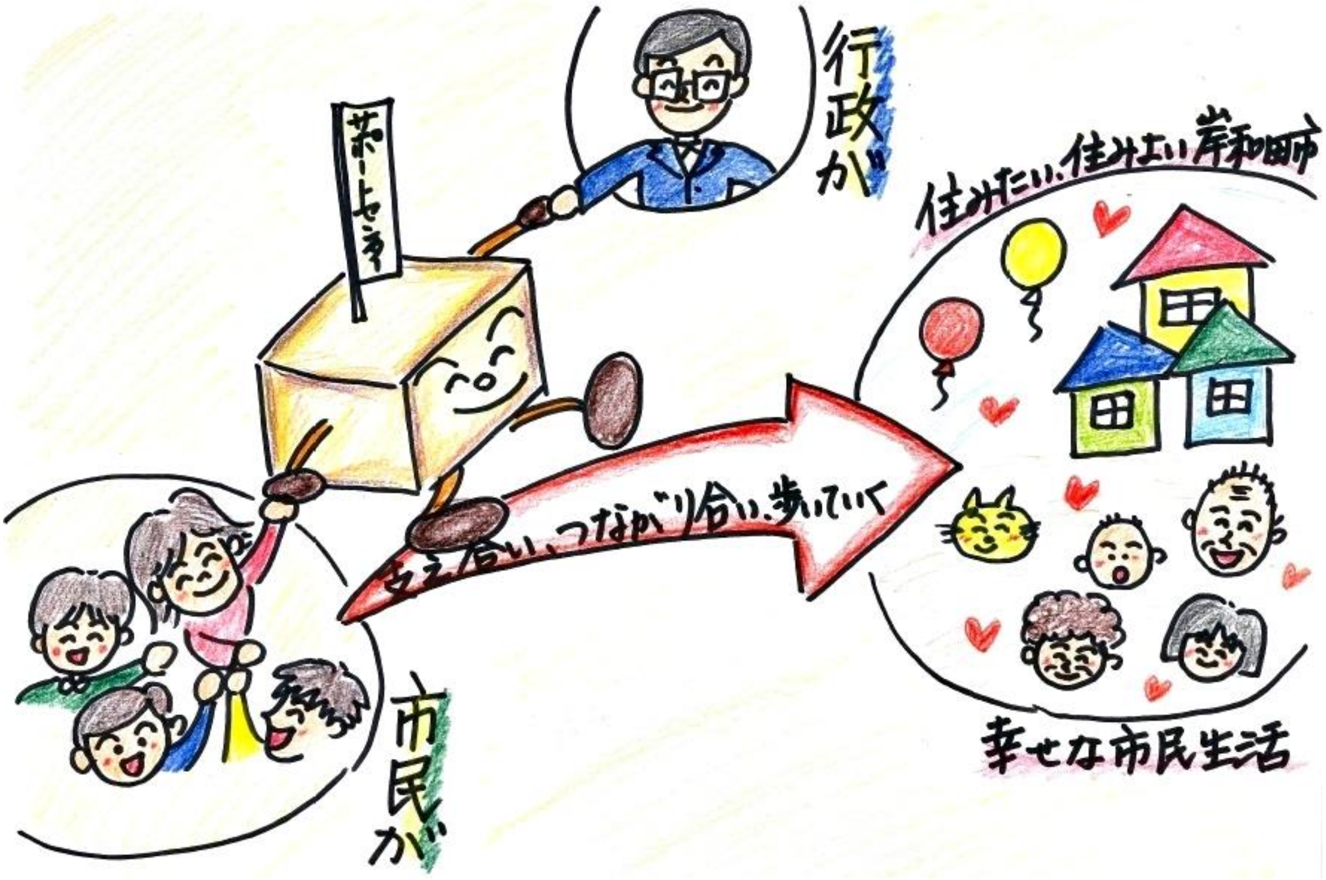
みんなで描こう！ みんなでつくろう！

わがまち岸和田で
市民の活動を元気にする拠点

市民発！

市民活動サポートセンター（仮称）への提言



2017年3月

市民活動サポートセンター設置に向けた
市民ワークショップ実行委員会

目次

はじめに……………………………………２ページ

１．現状と課題…………………………３ページ

２．目指す姿……………………………１１ページ

３．機能と役割…………………………１５ページ

４．運営……………………………………１７ページ

おわりに……………………………………１９ページ

資料……２０ページ

実行委員からひとこと……４１ページ

表紙の題字・イラスト　森山久美子

はじめに

「公民協働推進の指針」策定から十数年がたち、このたび建て替えられる新福祉センターの一室に「市民活動サポートセンター」が市によって設置されることとなりました。かつてのボランティアと言えば「福祉」というような時代から、今では「特定非営利活動促進法」（通称：ＮＰＯ法）もつくられ、これまで地域を支えてきた町会、ＰＴＡ、子ども会やテーマ型の無償ボランティア団体、さらにＮＰＯ法人等も加わり、市民活動の概念は広がっています。

少子高齢化、人口減少の中で、これまでの震災をはじめとする様々な災害の教訓からも指摘されるように、個々の団体だけでは、問題の解決が難しくなってきました。

本市では、沢山の方が地域の中で様々な活動をされています。そして今日、貧困、高齢化、災害等、新たな課題も加わり、多くの「困りごと」が起きています。そこで今回、市民発で、市民活動をしている方々に呼びかけ、行政（自治振興課）や社協（ボランティアセンター）にも加わっていただき「市民活動サポートセンター」について考えようと、グループワークを２回に分けて行いました。専門家の立場から、大阪ボランティア協会の岡村こず恵さんにもお越しいただき、中間支援のあり方や、必要性とその専門性についてお聞きしました。グループワークを通して語り合い、学ぶ中で、多くの課題や「気づき」がありました。ここからも単に行政に頼るだけではなく、また自分達だけで自己流にやるのでもなく、そこに寄りそうように、他の地域での様々な事例や情報や知識を教えてもらえたり、今まで考えもしなかった人達とつなげてくれるパートナーの必要性をますます感じました。

これまでにも、このような活動が積み重ねられてきましたが、サポートセンターが出来て終わりではなく、これからも時間をかけ、じっくりと質の高いものに創り上げていく私達の努力の必要性を実感しました。

これを一歩として、市民と行政が知恵や力を出し合い、市民活動がより着実に根づく“きしわだ”になればと思います。

市民活動サポートセンター設置に向けた
市民ワークショップ実行委員会
委員長　上月（こうづき）正洋

１．現状と課題

近年、少子高齢化に伴い活動の担い手の高齢化が進み、都市部に比べて地縁型住民組織が機能している岸和田市においても、テーマ型・地縁型問わず、市民活動団体の運営が困難になる状況が生まれています。
一方、地域課題は多様化・複雑化し、行政と市民、地縁型とテーマ型、営利・非営利など立場や分野を越えた協働によるまちづくりはまさに「待ったなし」の状況です。

(1) 町会・自治会の組織がかかえる課題

岸和田市の町会・自治会の加入率は７０％と言われていますが、地域によって１００％近いところから５０％を切ると言われるところまで格差があります。また、加入しないだけでなく、町会員であっても婦人会、老人会、子ども会に加入しない事例が増え、とりわけ、婦人会の無い町会がいくつもできています。
以下に、地縁型組織が抱える課題を挙げます。

①　町会の仕事の多さ

町会の仕事は、市広報配布など各種行政案内の回覧、行政施策に関する各種会議への出席や意見集約をはじめ、子どもの見守り、防災、防犯、福祉・民生など多岐にわたります。
加えて、開発行為の立ち会い、祭礼や盆踊りなど町行事の主催、校区単位の取り組み、町会館、防犯灯、ゴミ置き場、神社、地車など町施設等の管理があります。
これらの仕事に付随して、多くの役員・委員の選任をお願いします。子ども会等町内組織に加えて、青少年指導員、交通指導員、子ども見守り隊、PTA 役員、民生委員、防犯委員、廃棄物減量指導員、自主防災委員、水防団などです。
会長でなくても町役員は月１回の土日が空くかどうかという状況ですから、担い手不足になるのも無理はない、と言わざるを得ません。

② 共に暮らす意識の落差

地域の人々は多様性に富んでいます。それは大きな利点でもありますが、一方で地縁組織に加入しないという選択肢をとる人もいます。

一概にそのことを非難するものでもありませんが、安全、清潔に共に暮らすことを考えれば、防犯灯維持や清掃活動を同じ地域に暮らす住民が協力して行うことは、近年多発する災害時に命と暮らしを守るためにも、非常に重要なつながりであるとも言えます。

その最低限の協働意識を持てるか、どのように繋いだらよいか。町会運営にも多くの問題点があるでしょうが、そのような最低限の支え合いの仕組みも必要です。

福祉活動については、町会組織や民生委員、そして一部の熱心なボランティアによってカバーされていることで、「まかせておけばいい」という無関心な空気があることも否めません。

③ 社会や暮らしの変化に追いつかない組織改革

近年、岸和田でも地域で婦人会や老人会などが解散する事例が多くみられますが、原因としては、役員になることを望まない人が多いだけでなく、若年層から高齢者層までの大きなタテ組織の中で、世代間の意識の落差が次第に大きくなって目的や役割が見失われたことも考えられます。

町会は、行政の下請け、閉鎖性、行事参加の強制性などを指摘されますが、地域では、意識の変化と共に組織や行事を次第に変えてきたのです。例えば、町会と水利組合などとの分離や、新しい住民や女性の神社や祭礼への参加が大きく開かれてきたことなどです。

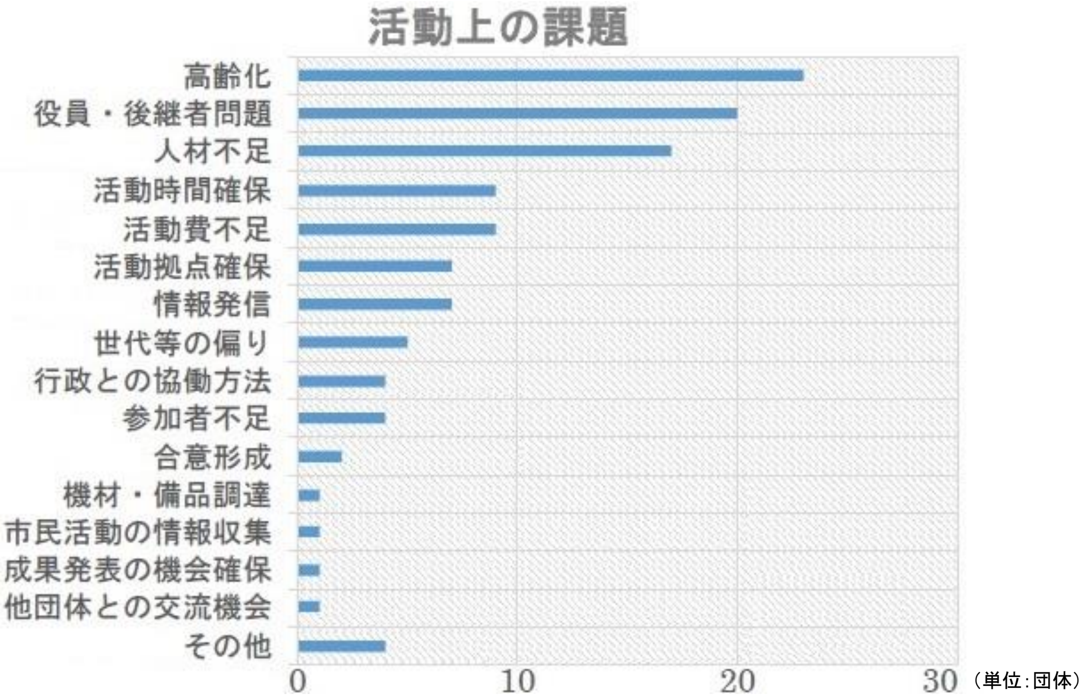
その変化があまり目に付かないのは、劇的に変化させるのではなく、周辺町会の運営や経験を参考にしながら徐々に変化させてきたからです。

しかし、近年、急速に進む少子高齢化や、勤労者層での働き方の変化など、社会のあり方が大きく変わる中で、町会運営は行政との緊張感のある協働から町民が楽しく交流できる場づくりまで課題が多いのです。

今の時代にあった組織の運営方法や行事の開催方法を見直すとともに、近隣町会の交流や、継続した組織運営の発想を生むような支援が必要なのです。

⑵ テーマ型（ＮＰＯ法人含む）の組織がかかえる課題

平成２８年に実施した市民活動団体アンケートにおける、組織の課題を問う設問では、「高齢化」「役員・後継者問題」「人材不足」という回答が多くありました。
また、テーマ型の団体は、活動拠点や財源確保に困ることも多く、活動全般にわたって、「ヒト」「モノ（活動拠点含む）」「カネ」といった活動に必要な資源を、より自律的に調達できるよう、組織運営への支援が必要です。



出典：「岸和田市における地域福祉に関する調査<ボランティア・市民活動団体>」（平成２８年８月実施）

上記のアンケート結果をもとに、以下にテーマ型ボランティアが抱える課題を挙げます。

① 活動者の高齢化

近年、自身の健康上の理由や家族の介護などを理由に活動を休止するメンバーが増えている団体が多くなっています。
各団体では、できる限り活動の負担を減らしたり、これまでの活動を縮小したりして対応していますが、一部の人への負担が増している傾向にあります。
テーマ型ボランティアの強みとして、町会・自治会、小学校区ごとのコミュニティなどのエリアを越えて広い範囲で活動できるというものがありますが、近年では、高齢化により自身で移動手段が確保できないなどの理由で、活動を休止するケースも少なくありません。

② 役員・後継者問題・人材不足

テーマ型団体の場合、あくまでも任意での活動となるので、新たなメンバーが入らない限り、たちまち人材不足、後継者問題に悩まされることになります。

約１０年前には、５０～６０歳代の専業主婦や、定年退職した６０歳代の人が活動の中心を担っていましたが、近年、女性の社会進出などにより共働き家庭が増えたことで、この年代層の方が、親の介護と同時に孫育てに忙しいという現状があります。

また、継続雇用を活用する人が増えており、地域デビューのタイミングが後になっていることも、この要因のひとつであると思われます。

上記（５ページ）のアンケート結果で「活動時間確保が課題である」と感じている人が多いことからも、仕事や家事、介護、子育て、ご近所づきあいなど、様々な暮らしの営みの中でボランティア活動を続けていくためには、心身の健康と家族の理解が必要不可欠だといえます。

このような状況の中で、役を引き受けると会議などが増えるといった理由で、役員のなり手が少なくなっていることも課題のひとつです。

また、活動できる人が少なくなると、現場での活動に費やす時間以外に、スキルアップのための時間が持ちにくくなります。活動や団体運営に関わる学びの時間が少なくなることで、後継者が育ちにくいといったことも課題として挙げられます。

③ 活動拠点の確保の困難さ

テーマ型団体は、地縁型組織とは異なり、自前で活動拠点（活動に必要な備品の置き場所も含む）を確保することが困難である団体が多いです。

たとえば、地域の住民が集まる居場所づくりなどを行っている団体にとって、地元地域の公民館を使えることはとても有効だと思われますが、公民館では飲食ができない、活動費を捻出するための物販ができない、ひと月当たりの利用上限回数が決まっている、不特定多数の人が参加する行事は認められないなどの理由で、なかなか使いづらいといった課題があります。

とはいえ、ＮＰＯ法人や任意団体については、有料で活動拠点を確保するための財源に余裕がない団体も多く、活動拠点確保のための中間支援が必要不可欠だと考えられます。

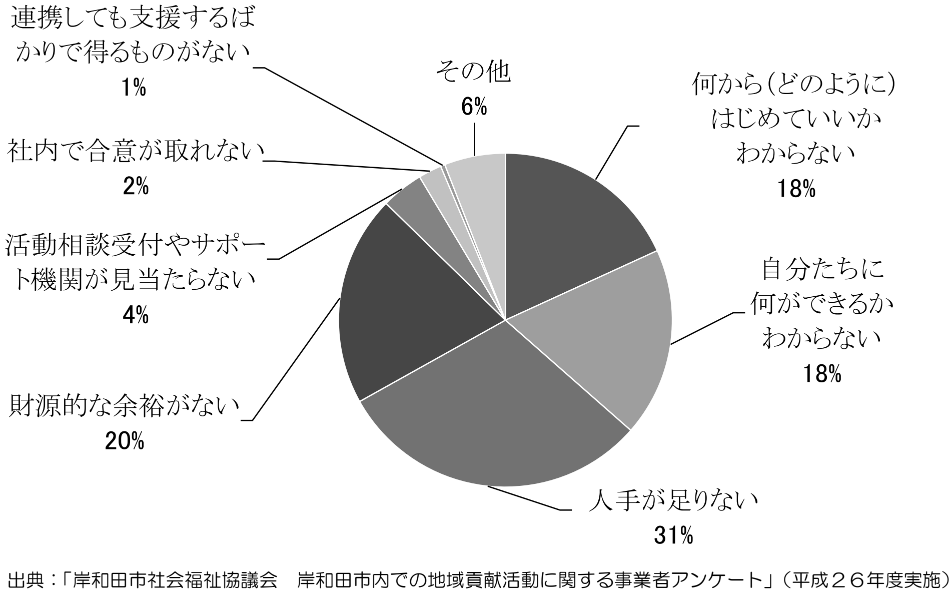
④　ＮＰＯ法人の経営に関する課題

ＮＰＯ法人については、地域課題に対して活動の成果をしっかり出していくための理事会組織の構成や、非営利活動に回せる資金の調達（寄付などに加えて事業収入なども含む）など、運営面で大きな課題をかかえています。
規模が小さいＮＰＯ法人では、異なる分野の専門性を持った人を理事として迎え入れたいと思っても、なかなか幅広い人脈を持っていない、また、広報や事業企画などのノウハウを十分に持っていないといった団体も多く、組織経営のコンサルテーションが必要です。

⑶ 企業の社会貢献に関する課題

岸和田市社会福祉協議会では、市民活動のすそ野を広げるために事業者の「参加」も支えたいという思いから、平成２６年度、市内約３,０００の事業者を対象に地域貢献活動に関するアンケート調査を実施しました。
地域貢献活動に取り組みにくい理由について、「人的、財源的な余裕がない」という回答に次いで、「何から（どのように）始めればいいのかわからないから」「自分たちに何ができるのかがわからないから」という回答が多数に上っています。
岸和田市内の事業者の多くは、地域密着の中小企業であるため、従業員数や事業予算の規模が小さいところが多いですが、事業者の設立趣旨や事業内容にリンクさせながら企業活動にもメリットを生むことができる取り組み提案が課題となっています。

地域貢献活動に取り組みにくい理由について



出典：「岸和田市社会福祉協議会　岸和田市内での地域貢献活動に関する事業者アンケート」（平成２６年度実施）

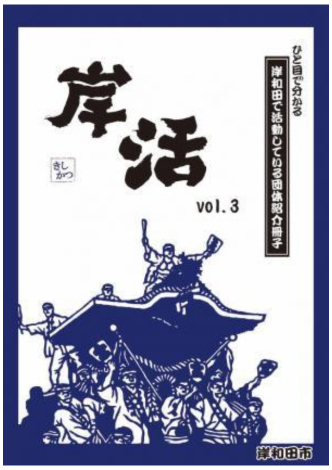
⑷ わがまち岸和田の市民活動支援（中間支援）について

① 行政による市民活動支援の取り組み

平成１７年に岸和田市が「公民協働推進の指針」を策定し、市民の主体的な取り組みを支援する「市民活動サポートセンター」の設置が謳われました。

市民活動団体と企業をマッチングするしくみとして「市民活動団体登録」や「事業者バンク」を創設しました。

市民との協働を推し進めるため、市民活動団体の支援を行う機関で協働推進チームを組織し、市内の市民活動団体を掲載する冊子『岸活』を発行するなどの取り組みを進めています。



② 中間支援拠点としての「岸和田市ボランティアセンター」

本市では、岸和田市社会福祉協議会が平成２年から運営している「岸和田市ボランティアセンター」が、中間支援機能の一部を果たしてきました。

市と社協が共同で策定した第２次地域福祉計画・地域福祉活動推進計画では、行政による市民活動サポートセンター設置が実現するまでの間、岸和田市ボランティアセンターの機能を拡充することで、幅広いボランティア活動の支援を補うということを方向づけ、総合的なボランティアセンターへと機能拡充を図ってきました。

③ 市民参画によるボランティアセンターの運営

岸和田市ボランティアセンターの最大の特徴は、多くの市民が参画して運営が行われているということです。

様々な立場や分野を越えて岸和田のまちを元気にしたい市民活動実践者が集い、連携を生む交流の場、「市民活動ステーション　コラボラ」の開催や、ボランティア情報を市民に発信する『ボランティアだより岸和田』の発行には、企画・運営メンバーとして多くのボランティアが関わっています。

また、社会福祉協議会登録ボランティアグループで構成する「岸和田市ボランティア連絡会」は、ボランティア活動者同士が横のつながりを持ちながら、スキルアップのための研修会や災害時のボランティア活動の検討などについて、自主的に取り組みを進めてきました。
ボランティアセンターの運営委員会の作業部会「企画ワーキング会議」では、分野を越える市民活動実践者が、社協のボランティアコーディネーターと共に、ボランティアセンターの事業内容や具体的な企画を議論し、市民コーディネーターとしての取り組みを進めています。

市民活動実践者の交流の場「市民活動ステーション“コラボラ”」

⑸ 中間支援の課題について

わがまちでは、上記のとおり、岸和田市ボランティアセンターを中心に中間支援の機能を拡充させてきましたが、近年急速に進む少子高齢化や、地域活動などに無関心な市民の「お客さん化」などを背景に、地縁型、テーマ型両方の市民活動団体の組織基盤が崩れつつあり、現状のボランティアセンターの体制では、十分な中間支援機能を果たすことが困難です。
以下に、わがまちにおける中間支援に関する課題と、その解決のための市民活動サポートセンター設置の必要性を挙げます。

① ボランティアセンター（中間支援組織）の認知度の低さ

市民の中でのボランティアセンターの認知度はまだまだ低く、ボランティア活動を始めたい人や、社会貢献活動に取り組みたい企業の中には、「どこに相談したらいいのかわからない」という人が多いのが現状です。
量的にも質的にも広報戦略について見直す必要があります。

② 市内の市民活動に関する具体的な情報の一元化が不十分

より有効な中間支援を行うには、市内外の市民活動について現場で実際に行われている内容を把握し、的確に活動希望者を現場につなぐことができるコーディネーターの存在が必要不可欠です。しかし、現在のボランティアセンターの人員体制では情報収集が追いつかず、把握できていない市民活動や、つなげられていないケースも多くあります。

③　企業との連携が不十分

市の「事業者バンク」には、企業が自社で行える社会貢献活動が登録されています。しかし、市民への周知や、市民活動団体とのマッチングを行うコーディネート機能が不十分なため、具体的な協働につながっていないといった課題があります。

④　市民活動団体の組織基盤や運営に関する助言や伴走型のサポートの未整備

今後、ますます少子高齢化が進み、課題が多様化、複雑化する社会を迎える中で、地域コミュニティでの住民同士の助け合いはもちろん、テーマ型の市民活動によるきめ細やかな支え合いの必要性が高まっています。

一方で、上述のとおり、地縁型、テーマ型共に組織基盤が揺らぎ、さまざまな困難が生じています。

こうした市民活動団体の組織や活動を、今の時代にあったものにしていくために見直し、住民が中心になった地域課題の解決力を向上させるためには、ボランティアや市民活動の組織運営に関する知識を持つ専門職による伴走型のきめ細やかなサポートが必要です。

⑤　団体の立ち上げ支援について

今後、地域課題が複雑化するにつれ、新たな団体を立ち上げて、課題解決を図ろうとする市民の支援が必要不可欠です。

中間支援組織は、単に既存の団体同士をつなぐだけではなく、新たな市民活動団体の立ち上げに関する情報提供や伴走型の起業支援を行っていく必要があります。

（この章の編集：実行委員西村・青山）

２．目指す姿

＜ わがまち岸和田を元気にしたい！ ＞

市民参画！ 市民も一緒に創ります

「市民」の中には、「岸和田市を元気にしたい！」と考えている人がたくさんいます。しかし、「どうやったらできるのか？」その術（すべ）を知らない人もたくさんいます。つながることができる場がなくて、しんどい思いをしている人がたくさんいます。

そこで、大切な役割を担うのが、「市民活動サポートセンター」です。
このサポートセンターで機能させるべき「中間支援」こそが、岸和田市を元気にする重要ファクターです！！

市民活動が活発になれば、市も元気になります。
そこに対する投資は必要不可欠です。
皆で知恵を出し合い、工夫し、元気な岸和田市にするためには、サポートセンターと市民の力が欠かせません。

以下に、サポートセンターの目指す姿を掲げます。
「こうありたい！」という姿です。
サポートセンターは以下のことを大切にして歩んでいきます。

(1)「総合的なサポート」～地縁型からテーマ型まで～

◎ すべての市民に開かれ、ありとあらゆる市民活動をサポートします

地縁型からテーマ型まで。ＮＰＯも企業も！ ありとあらゆる個人・団体をサポートします。
みんなで手と手をとりあって、協力して活動していくことが大切です。
その中心となるのがサポートセンターです。

⑵「つなぐ　仲人」～交流　中間支援～

◎ つながりをしっかり作ります

いろんな人、いろんな団体を、バラバラに支援するのではなく、個々人・各団体をつなげて相乗効果を生み出します。
１つの団体で考えてもアイデアが湧かない……。
だから、つながることが大切です。
つながりは、活動の広がりに欠かせないものです。
「つながっていく力」を身につけた個人・団体は、自分でどんどんつながっていく事ができるようになります。
そうして、市民活動が活発になり、岸和田市が元気になります。

◎ 皆がそれぞれの立場で、自分の強みを活かしあい、弱みを補いあいます

個人も団体も得意なこと・苦手なことがあります。
それぞれが、得意な分野で力を出しあうことにより、相乗効果が生まれます。
また、それぞれの弱みを補いあうこともできます。

◎ 課題解決の力を生み出します！ 底上げします！ 引き出します！

個々の力を上げます。各団体の力を上げます。
市民の立場で、市民の力で、地域の課題を解決する力をつけます。
市民の立場で、市民の力で、地域の課題を解決する人を増やします。
そうすることにより、岸和田市自体の課題解決力を上げます。

◎ １＋１を３にも４にもします

個人と個人、個人と団体、団体と団体がつながることにより、相乗効果が生まれます。

◎ めっちゃ頼りになる仲人をめざします

仲人という、つなぐ役割の人は、個々人や団体や地域の特性を見極め、理解する力が必要です。
個々人や団体の相性をしっかり見極められる力があるからこそ、良いご縁が生まれるのです。

⑶「共に　一緒に」～マネジメント　コンサルティング～

◎ あらゆる市民活動の伴走者になります

マラソンで言うところの「伴走者」。
対等な立ち位置で、適切な提案をします。
市民と共に考え、共に悩み、適切なアドバイスします。
一緒に走って、一緒に転んで、一緒に立ち上がります。

◎ 潤滑油になります

個々の団体の運営がスムーズになるサポートをします。
各団体間の関係がスムーズになるサポートをします。

◎ 個々人・各団体の運営方法や活動を支援します

個々人・各団体に対して、気づきの「しかけ」を作ります。
また、活動場所がなくて困っている人には、活動場所の紹介もします。

⑷「場所　拠点」～人が集まる場所　活動の拠点～

◎ 居心地の良い「居場所」になります

居心地の良いお茶飲み場。
気軽に気楽に声をかけやすい場。
そんな場で語り合えば、さまざまな課題が見えてきたり、自分たちでは思いもつかなかった問題解決の糸口が見えてきます。
また、仲間と知り合い、共に活動する一歩にもなります。

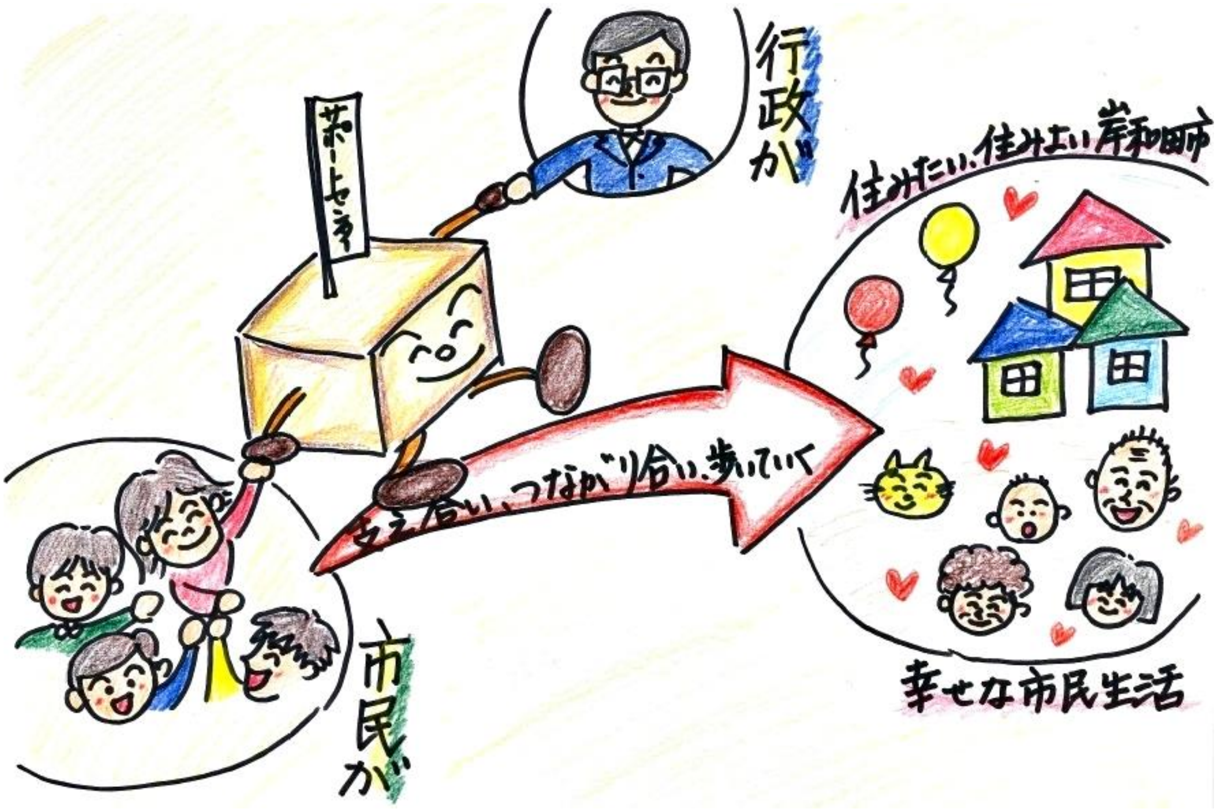
◎ つながりを生む「作業場」になります

作業場所がなくて困っている人がいます。
積極的な交流や協働といったコミュニティー形成を促す、事務所的役割が担える場所も大切です（コワーキングスペース的役割）。

⑸「土壌を作る　創造する」～生みだす 芽をだす～

◎ 新たに活動したい！ という「個人」「団体」を生みだします

何かしてみたいけど、
「どうしたらいいのかわからない」
「何から始めていいのかわからない」
そんな個人・団体の最初の一歩をサポートします。



（この章の編集：実行委員戸治野（とじの）・金子・森山）

３．機能と役割

市民活動サポートセンターは、地域の各種団体やボランティアグループ、ＮＰＯ法人や、個人の活動者等、様々な立場の方々が利用するため、以下の機能と役割を果たす必要があり、よって、コミュニケーション力や事務能力の高い、経験豊富で専門知識（ボランティアコーディネート、ファンドレイジングなど）を有する職員の配置が必要だと考えます。

⑴ 市民活動の相談窓口

- 活動実践者、活動希望者からの様々な相談を受ける窓口業務
- 団体等からの運営に関する専門的相談と支援（人・モノ・金）
- 団体に寄り添う中で、必要に応じ、活動を維持させる為の提案等を行う
- 活動現場に出向き、課題発見やニーズの聞き取りをし、支援する
- 相談内容によっては、行政と連携し調整をはかる

⑵ 交流、つながり作り

- 活動実践者が交流し情報交換が出来る場の開催
- 地域とボランティアグループ、ＮＰＯ、企業、学校など違う分野が連携できる仕組み作り
- 活動者が気軽に立ち寄れる場の提供
- 行政の取り組みに市民参画をする場のコーディネート
- 行政と市民活動団体が協働で行う取り組みのコーディネート

⑶ 学習、研修

- 岸和田市の市民活動団体や市民活動者のニーズに合わせた講演会の開催
- 分野やテーマごとの事例報告会の開催
- スキルアップの為の講座の開催
- 活動現場の状況に合わせた学習会の開催や提案、共同企画
- 講師の紹介や派遣

⑷ 情報の受発信と蓄積

- 活動地域や分野に関わらず、あらゆる情報を行政（各課・各部署）、地域、団体、教育機関、個人等から収集する
- 利用者のニーズに合わせた形に情報を整理し提供する
- 様々な情報を蓄積、分析する
- 収集、整理した情報を、様々なツールを用いて、定期的かつ的確に発信する
- 日頃から情報の受発信に協力してもらえる仕組みを構築する

⑸ マネジメント支援（立ち上げ支援含む）

- 団体運営上の問題解決のための相談、支援、講座開催
- 資金調達方法についての相談、講座開催
- 助成金等の情報提供
- 企業等への紹介
- 人材育成や人材確保のためのサポート
- 適正な会計処理等への支援、専門家の紹介、講座開催
- 情報発信のためのサポート
- ＳＮＳやチラシ等の情報発信ツールについての講座開催
- その他団体が必要とする相談、助言、専門家等の紹介

⑹ 市民活動拠点としての事務所機能

- 市民活動団体や市民活動者にとって、無償及び安価で使い勝手の良い機材や設備を設置する
- 貸し室等活動者にとっての拠点機能や事務所機能を備える

（この章の編集：実行委員原口・津田・川口・木村・平松）

４．運営

市設置である市民活動サポートセンターの運営については、地域の課題やニーズに自主的に関わり解決すべく活動している人や団体を支援することを目的としており、市民活動実践者のニーズに対応した柔軟な支援を実施できる体制が必要であるため、以下のとおり、自立的・自主的かつ責任を持った運営体制で行うことが望ましいと考えます。

(1) 運営委員会

基本的には「市民だけ」「市だけ」「特定の団体だけ」にならないよう、市と市民活動実践者が協働して運営に携わり、運営方針や事業計画等に責任を負う機関として、運営委員会を設置する必要があると考えます。
なお、運営委員会に求められる役割は、下記のとおりと考えます。

① 市民活動サポートセンターの運営方針の検討及び決定
② 市民活動サポートセンターの事業計画の検討及び決定
③ 市民活動サポートセンター事業についての評価

また、運営委員会の構成委員は、下記のとおりと考えます。

① 地縁型組織
② テーマ型ボランティア
③ ＮＰＯ法人
④ 企業関係者
⑤ 市民活動支援に関する知識を有する人

(2) プロジェクトチーム

運営委員会により定められた事業計画等を実行する作業部会として、市民参加による各種プロジェクトチームを設置する必要があると考えます。

（例）広報活動
セミナー開催
市民活動初心者支援
コミュニティスペースづくり　など

⑶ スタッフ

これらのことを実現するために、市民活動サポートセンターには、下記の能力を有した、経験豊かな専門職が、複数名必要だと考えます。

① 市民活動実践者について知識と理解を有している者
② コーディネーション能力を有している者
③ 情報の収集・蓄積・発信能力を有している者
④ 中間支援について経験・実績を有している者

⑷ 開館時間

市民活動サポートセンターは、下記の理由により、市役所の開庁時間と同じではなく、年末年始以外は夜間や土日も開館時間とする必要があると考えます。

① 市民活動イベントが土日に開催されることが多いため
② 日中に仕事や学業に従事している市民活動実践者の活動拠点でもあるため

また、下記理由により、平日の休館日を設ける必要があると考えます。

① 前記のとおり土日も開館する必要があるため
② スタッフが事業・打ち合わせ・研修などでセンターを留守にする日があるため

なお、現時点で開館時間や休館日を固定するのではなく、オープン後の市民活動者ニーズや活動状況に応じて検討・決定していく必要があると考えます。

⑸ サテライト

将来的に、市民活動サポートセンターには、下記の理由により、各地域の市民センターなどにサテライトを設置し、市民活動やボランティア活動がしやすくなることが望ましいと考えます。

① 本市の地理的な特徴から市民活動サポートセンターに足を運ぶことが困難な市民が多くいるため
② 各地域・地区の問題点やニーズをリアルタイムに情報収集する必要があるため

（この章の編集：実行委員青木(み)）

おわりに

市民活動サポートセンター（仮称）について、今回のワークショップで出された着想や意見をまとめて、現状の分析、理念や具体的な運営などを各章に整理して述べてきました。

参加した市民は、福祉・環境・生活・災害などに取り組むテーマ型の個人・団体、町会などの地縁団体、社会貢献を行う企業（人）、行政の人、議員など所属も年齢も多様でした。

行政が市民活動サポートセンターを設置すると決めたときに、市民がそのことを自分ごととしてとらえ、これだけの知恵を出しあい、どう動かしていくかを企画、評価し、自ら活動することが「あたりまえ」だと考えている人々が集まりました。

このことこそが、市民活動がほんとうに広く深く成長してきたことの証であり、サポートセンターが欲しいという状況をつくったのだと思います。

また、テーマ型のボランティアと地縁団体とは全く別個のものと捉えられがちですが、実はいろいろな行事や取り組みで折に触れ相互の交流や支援も行われてきました。

このように、地域では、地縁団体もテーマ型ボランティアも一緒になって大きな役割を果たしています。このことは岸和田市の市民活動の大きな特徴と言えます。

岸和田市の産業、生活の指標や市財政は決して良いものではありません。だからこそ、お金と力が無ければ知恵を出して市民みんなで繋がって元気になろう。そういう行政と市民の「協働」や市民活動相互の「能動的なつなぎ目」としてのサポートセンターにぜひ育てていきたいと思います。

むすびに、議論に参加し多くの着想や知恵を出していただいた市民の皆様に心から感謝申し上げます。

そして、わがまちのサポートセンターと市民活動がよりよい実践と共感の芽吹きとなりますように、ひとりでも多くの市民にこの提言を読んで話の種としていただきますよう願っています。

市民活動サポートセンター設置に向けた
市民ワークショップ実行委員会
副委員長　西村平和

資料

（1）ワークショップ開催の案内チラシ

⑵ ワークショップ１日目

① 概要

開催日時　平成２９年２月１２日（日）午後６時から午後９時
開催場所　岸和田市立福祉総合センター１階大会議室
　　　　　（大阪府岸和田市野田町１丁目５番５号）
参加者数　５８名

② トークセッション（約１時間１５分）

目的　　市民活動サポートセンターの「中間支援機能」について参加者への事前説明など
登壇者　佐野成城氏　　岸和田市市民生活部自治振興課
　　　　岡村こず恵氏　社会福祉法人大阪ボランティア協会
　　　　青山織衣氏　　社会福祉法人岸和田市社会福祉協議会
　　　　（進行：実行委員長　上月正洋）
内容　　佐野氏「市民活動サポートセンターについて」
　　　　岡村氏「ボランティアとは？　中間支援とは？」
　　　　青山氏「これまでの中間支援のあゆみと課題」
　　　　全員でフリートーク「サポートセンター設置の必要性」

佐野氏　　岡村氏　　青山氏　　上月

③ グループ討議（約１時間１０分）

テーマ　市民活動実践を行う上での課題と必要なサポート
班分け　ランダム　８グループ　約６人で１グループ
　　　　実行委員がファシリテーターとして参加
討議　　㈠ 課題を赤い付箋に書いて貼りながら発言
　　　　㈡ そのサポート案を黄色の付箋に書いて貼りつつ発言
　　　　㈢ 付箋をもとにグループで意見交換
　　　　㈣ シェアタイム＝全員が討議中断→自由に他グループの討議結果を見て回る→注目した付箋に印を付ける
　　　　㈤ グループに戻りシェアしたことなどを元に討議再開
　　　　㈥ 発表することと発表者をグループごとに選定

④ グループ発表（約１０分）

方法　グループ代表者が１分程度で発表
内容　㈠ 最も深刻な課題
　　　㈡ その解決のためにサポートセンターに期待すること

⑶ ワークショップ２日目

① 概要

開催日時　平成２９年２月１８日（土）午後３時から午後６時

開催場所　岸和田市立福祉総合センター２階会議室

（大阪府岸和田市野田町１丁目５番５号）

参加者数　５０名

② 前回の振り返り（約２０分）

目的　　開催目的確認と１日目不参加者への説明

登壇者　実行委員長　上月正洋

③ グループ討議１（約５０分）

テーマ　市民活動サポートセンターに必要な機能・役割

班分け　市民活動属性別　６グループ　約６人で１グループ

テーマ型２グループ　地縁型１グループ

ＮＰＯ型１グループ　個人型１グループ

企業型１グループ

実行委員がファシリテーターとして参加

討議　　㋐ 赤い付箋に書いて貼りながら発言

㋑ 付箋をもとにグループで意見交換

④ シェアタイム（約２５分）

目的　自由に他グループの討議結果を見て回り意見をシェア

方法　㋐ 注目した付箋に印を付ける

㋑ 意見についてのコメントを青色の付箋に書いて貼る

㋒ 意見についての質問も青色の付箋に書いて貼る

⑤ 中間発表（約１０分）

方法　グループ代表者が１分程度で発表

内容　シェアタイムに寄せられたコメントや質問への返答

⑥ グループ討議２（約４０分）

テーマ　サポートセンターの運営で私たち市民にできること

班分け　グループ討議１と同じ

討議　　㋐ 黄色い付箋に書いて貼りながら発言

㋑ 付箋をもとにグループで意見交換

⑦ グループ発表（約１５分）

方法　グループ代表者が２分程度で発表

内容　討議の内容と結論

⑷ ワークショップの様子

①　１日目

②　２日目

⑸ ワークショップ参加者の感想（一部）

「いろいろな立場の人がそれぞれの活動をされている」

「かなり厳しい意見もきけたので、具体的なものが考えられてよかった。市民も手伝えることがたくさんあるとわかった。頼れるところでもあってほしいが、積極的にかかわっていく気持ちも大切であると思った」

「こんなに大勢の方がサポートセンターに期待しているのだということを感じた半日でした。いいものを沢山みつけてサポートセンターに集約して近隣からうらやましがられる岸和田市民活動サポートセンターにしていきましょう！」

「すてきなアイデア、エネルギーが岸和田にはまだまだ眠っている。くすぶっている。早く活用されるようにシステムを作り、機能的に動き出せるとおもしろい」

「みんなサポートセンターをとても必要としている」

「相談窓口ができればとても助かります」

「この市民活動が活発になる事によって、岸和田市が活気づき、住みよい町になるだろうと、みなさんの意見を聞き喜ばしく思いました」

「市民活動が活発になることにより、岸和田市が活発になり元気になります！ 市民活動サポートセンターが上手く機能することにより、岸和田市が元気になります！ 岸和田市の要です！ 是非サポートセンターをしっかりバックアップして下さい！」

「たくさんの意見が出て、色々と考えさせられました」

「皆さん一生懸命頑張っていることに感動しました」

「色々な意見が出て、学習できました。落ち込む時もありますが、元気で帰ります。夕方からの会議には年を重ねているのでできませんのでヨロシク！」

「相談窓口の重要さを実感」

「みなさんのエネルギーを感じました」

「これからがとてもたのしみです。行政・社協・市民でいいものになったらと思います」

「色々な着眼点に気付かされ、新鮮だった」

(6) グループ討議１日目まとめ

2017年2月12日(日)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第１日目　グループ討議まとめ

活動場所に関する課題

- 公民館を色々な活動につかえていない。
- 居場所をするための場所（安いところ）を探している。
- 公民館の使い方がわからなかった。
- 活動スペース不足
- 公共施設利用の困難（公民館等）
- 活動の場所がない
- 会議場所がない
- 録音室に非常時の放送が入らない。

活動場所確保に向けて必要な取り組みやサポート

- 公民館の活用　サポートセンター機能ができればいい
- 公民館の有効活用
- もう少し公民館を開放してほしい。
- 公共施設利用の柔軟化
- 町会館の有効活用（テーマ型と地縁型をつなぐ）
- 活動の場所や機器などのサポート
- 公民館の有効利用
- 町会館を活動場所に提供してもらう
- 企業が会議室を提供
- サポートセンターで活動場所の確保の方法について教える。

地域組織に関する課題

- 子供会に入る人がいない（親がいやがる）
- 地域ボスによるマインドコントロールからの目覚まし方法
- 町会加入率が下がってきていて地域行事が一部の人のものになりかけている
- 地域協議会の活性化
- ボラセンでの連携でサポセンのような屋上屋を重ねなくてもよいように
- 町会加入率の減少
- 上下関係のないサポート
- 老人会役員の改選
- 町会システム　今に合うように！
- 老人会会長、地区福祉委員会、見守り活動まとめ、いきいきサロン　　事務量多い
- 婦人会のなり手がいない

地域組織の活性化に向けて必要な取り組みやサポート

- 地域ごとにサポートセンター　必要
- 市民協議会活用→　サポートセンターなくてもいける
- 時代遅れではなく、今の時代に合った組織になる。
- 町会入会の募集員

岸和田のまちが抱える課題

- 商店街がさびしい
- 老々介護
- 不登校の子供が日中行ける場所がほとんどない。
- 引きこもりの子どもを持つ親の相談場所が少ない。
- 商業施設まで遠い
- 社会参加
- ニーズの多様化
- 静かに暮らしたい
- 子供を見守る場所が要る
- 子育て世代の住民減少
- ママ友できない

資金不足に関する課題

- 賛助会費がもらいにくい
- 工作機械の購入費が不足
- テープ用機器が古い。録音したテープの巻き戻しが不能になった。
- ダビング機（テープ用）が故障していて以前は3できていたのが1しかダビングできない。
- 毎年赤字決算
- お金の稼ぎ方がわからない
- 予算が少ない、参加費をとる
- 活動者のお金のサポートも必要
- 資金

資金不足への対応へのサポート

- お金ではなく何か代わるものがないか考えては
- 資金調達の方法を学ぶ
- 稼ぐ！　アイディアをみんなで話し合い実行
- お金の稼ぎ方を教えて欲しい　ファンドレイジング
- 無償の考え方

その他活動上の具体的な課題

- 地域猫飼育グループ把握　避妊手術支援　地域でのグループのつなぎ合わせ
- 津波・避難要支援者の把握　支援策（リアカー配置等）が進まない　防災・火災　対処策も
- アレルギーの子供が増えているので除去食等を考えなくてはいけない
- 認知症・知的精神障害のある方を触法　ない　見守り・地域協力
- PCなど機器の操作
- アクセントの問題
- 傾聴Vでの出来事（デイサービス）　利用者さんに「あんた、いつまでおるんや！5分か10分でどっか行け！」と
- 対象となる子ども（1～3年生）が増えるのが課題
- 常時来てくれる　男1、女3～4名増やしたい
- 途中での点字を読める人が少ない
- 点字ばなれ

活動を進める上での情報取得についての課題

- 津波・避難要支援者の把握
- 正直なところ岸和田市の不登校人口がよくわからない。
- 個人的なことですが地域の事を全く知りません。
- 逆にどう求められているか?
- 提供する場がない（わからない）

情報取得に向けたサポート

- データを集める　→　オープンにする
- 困っている人の要望を知りたい。
- 嗅覚を研ぎ澄ます
- 課題を学ぶ機会をつくる

具体的な活動の課題への解決策としての取り組み

- 機器操作の勉強会を設けたいと思っている。

番外編　活動していて嬉しかったこと・成果

- （傾聴V）　沖縄出身の利用者さん（スタッフ）からこのおじいちゃん歌が好きやから歌ってあげてと言われ、沖縄民謡（安里屋ユンタ）を歌うと泣き始めました。
- 活動の広がりが生まれている
- 社協VCのつなぎで地域参加ができてきた

網掛け部分は賛同者が3名以上いたものです。

団体の運営全般（マネジメント）に関する課題
団体として取り組むべきこと
人手不足・議会傍聴・問題追跡調査・発信　資料作成
会議や内部の連絡の効率化
（職場の）仲間の意思統一
データの管理方法
経営難しい・・・
活動がない
声の大きい人の発言に引っ張られる・・・
継続した活動ができるか？
活動する時間不足
時間をどう使うか（研修の時間等）
活動している人が忙しい
高齢→理解力が落ちてくる

よりよい団体運営のために必要な取り組みやサポート
人と組織とお金
魅力ある組織になる（どの団体にも言える）
企画力を養う・学ぶ
発想の転換、頭の考えを柔軟に！
それぞれの得意分野（専門性）を高める
ひとりひとりが力をつける
活動が活発（ほめて～）
小さい声を尊重する
活動する上でのスキルをあげる

他の団体や他分野とのつながりについての課題
「人と人」「団体と団体」がつながる仕組み作り
地域内で団体同士がつながれていない
地域（居場所）の方との交流の機会を持ちたい。
いろんな立場の「人」と「人」をつなげる仕組みづくり
地縁型とテーマ型が融合できるしかけづくりが互いの為に必要
全部の連携
つながるしくみをどうするか？
テーマ型と地域型の橋渡しが！
討議のテーブルがない
テーマ型の活動連携の方法
活動分野間の交流が少ない
地域とのつながりをどうむすんでいくか
サ高住等の介護施設が地域とどう関わりを持っていけるか?
団体が多い

つながりやコラボを生みだすサポート
他団体との協働・募集
学校（特に小学校）と地域がつながる
活動実践者同士が普段から交流できるスペースを常設してほしい
多くの人、団体が連携をしていければよい
つなげるしくみを作る
出会いの場を作る（様々な団体）
出会う機会をつくる
しくみを考える前にまずつながる
同じ悩みを持つグループとの交流会
団体間のコーディネート
人と人をつなぐこと
企業をまきこむ
サポートセンターができることで、いろんな団体とのつながりができる
その中間支援を現在のボラセンがになってくださっているので今後も応援していただきたい
企業さんとのコラボなど

広報や活動の必要性の啓発についての課題
知らないことが多すぎる
広報
活動に対する認知度が低い
啓発しても実際にはあまり実施・実践していない
学校内・地域で障がいへの理解が少なすぎる。
居場所をもっとPRしたいがどうしたらいいか？
活動内容が分かりにくい（NPOも町会も）
情報発信しても受け取ってもらえない
活動のPR　もっとうまくできないかなぁ
人を集めるチラシの作り方
ボランティア活動に対しての理解者が少ない
ボランティアと聞くと、時間をとられ、労働がきついというイメージ
市民活動の魅力をシェアしたい
「うまいこと言う」人が要る！
理解不足（当事者だけでは伝えきれない）
（点字等）受講はするけど活動にはつながらない
研修がない
ボランティアの知名度をあげるにはどうしたら良いか

効果的な広報や活動の必要性の啓発に向けたサポート
SNS・ブログ・チラシの発行による呼びかけ
チラシ（人集め）を置かせてほしい。
活動体験の周知
紙媒体の情報だけでなく、動画等参加のしやすさを向上
ちらし等に写真をのせる
スーパー等身近な場所での周知→意識してない人への周知
周知活動の場所・時間・人材
ホームページ、SNSで発信
うまいこと言う！　伝える力をつける
わかりやすい言葉で気長に伝える
情報の発信を！
市民活動について詳しく説明してくれる
代弁者育成
ボランティアや市民活動の概念を伝えてほしい
代弁者（活動の価値や意味のづけ
うまいこと言える人がほしい
情報発信（ボランティアセンター、社協さんより）
情報発信の充実
サポートセンターからの発信
チラシに写真をのせる

担い手不足に関する課題
ボランティアはいつまで出来るか？
若いスタッフが欲しい
スタッフ不足（高齢のため）
今は一人でやっているので同じ思いの仲間が欲しい
人材不足（必要なメンバーが集まらない）
後継者不足（適任者がいない）
人手不足
声掛け見守りメンバーの減少
人手不足
新しい人材の獲得
仲間を増やしたいがなかなか・・・
担い手不足
役員のなりてがない
介助のにないて不足
みんな忙しい
こどもの見守り　若い人が参加してくれない
ボランティアの高齢化
活動者の高齢化
人材不足（なり手が少ない）
メンバーの高齢化
高齢化が進んでいるため、免許をもたない私たちも介護食の勉強をさせられている。 サークル会員の高齢化　役員になった時の不安を耳にします。
担い手不足
子供が生まれたら活動が制限される
社会人になってから市民活動を始めにくい
高齢者が多い
お母ちゃんにダメだしされる
若手が少ないので
いろんな活動に後継者が少ないと聞く
一人のやることが多い（一人で何役も）
テーマ型と地域型両方やってる人が目立つように

担い手の裾野を広げるための取り組みやサポート
モチベーションを上げる
どんな人が欲しいか明確にする
関わっている人に感謝するという気持ち
楽しいことを考えて活動する（飲み会等コミュニケーション）
個人での参加だけでなく、グループ・家族で参加
ありがとう
暇な人を探す
無理をしない　出来る範囲で行う
高齢者でもできること。できる気持ちを持たせる工夫
高齢者と若者の世代間交流のアイディアを考える、企画する
分野ごとの学びのしくみを作る
話すチャンス　意気投合のきっかけ作り
高齢者、元気！
お互い様
「ありがとう」「感謝」
「当たり前」と思ってはいけない
学生をターゲットに理解者を勧誘
活動のふりかえり、達成感
役割
社会参加
参加しやすい仕組み作り
「大人会」の開催
ボラスタ頑張れ

市民活動サポートセンターに配置する人材
市民活動サポートセンターには良くわかってくれいる人材が必要 本当に地域の事や団体の事をしっかり把握してくれている人がサポートセンターを切り盛りして欲しい 市民活動サポートセンターには様々な事情を分かってくれている人材が必要
市民活動サポートセンターに中間支援の専門職を置く
第2の青山さん
コーディネーター

サポートセンターに必要なスペース
カフェコーナー　など

サポートセンター全般に関わるメッセージ
サポセン頑張れ
活動者が困った時に孤立しないサポート体制があればいいな。 困っている人が気さくに相談に行ける場所にしてほしい
中間支援の大切さ

（7）　グループ討議２日目まとめ

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

＜個人ボランティアの皆さん＞

資金
資金をどうとるかの支援
基金や助成金等の情報提供を
サポートセンター基金の設置→市への働きかけ

←

市民ができること
寄付の呼びかけ
成功例の発表・報告
何の為！にという事からスタートすべき

情報
限りなくリアルな情報収集
しっかりとした広報
地区市民センターと情報提供の共有化（サポートセンターの情報をパソコン画面で見れる）

←

市民ができること
情報発信（手マメ・ロマメ・足マメ）
情報ネタを提供すること（アンテナ役）
正確なデータを直接会って聞いてくる
情報の提供（個人の特技・地域の情報・困りごとetc）
企業とのコラボ（テレビきしわだ・ラヂオきしわだ）

コーディネート・相談機能
現場に即した人が必要ではないか
待ってるだけでない動けるセンター（寄り添える）
いろんな意味での仲人役、つないでいく役
サポートを求めている所にどう合わせていくか→自己満足
ボランティア活動の評価機能を！
派遣先の評価も必要（なぁなぁにならないように）
派遣先への不満を個人ボラはいう機会がないので聴いて調整する機能
ボランティア活動をしていての悩みなど　相談室
ボランティア同士で話し合い（交流）できるコミュニケーションカフェ
縦割りではなく組織横断の体制
課を超えて調整できる権限
課題・困ったことを相談できる窓口と部屋の確保
つなげるためにつながれるセンター
各団体とつながっているサポートセンター
学校・公民館の空き室（縦割りの弊害）
体操一つでも健康促進？介護保険？

←

市民ができること
声を掛け合って仲間を増やす(様々な経験を活かせるので)
市民がきっちり評価する
市民の声をしっかりセンターに上げていく
評価箱・評価表をつくる
アンケートを市民でとる（行政ではなくて）
何が達成できたのか？（開設者）
経験を持っている市民がボランティアとして参加・協力できる
町会・自治会から認められた人物でないと市民コーディネーターはできない
必要な時に使える場所の確保に困る

←

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
評価を何に使うのか?（特定の人だけの利用になるといけない・声を聞いてニーズありきのセンター　センターも人もステップアップ）
庁内連携とても大事ですよね！
市民コーディネーター、市民活動サポーターの肩書があると動きやすい
課を超えてとは？

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

スキルアップ

- 個人ボランティアのスキルアップ講座を開く
- 同じテーマでも地域や状況によってセミナー内容を変えて開催できるセンター
- レベル、進捗状況、年齢層、ライフスタイル
- 進捗、レベル、世代に合わせたセミナーの開催
- 専門性を活かした人→現場との情報交換

← 市民ができること
- 市民にとって必要なテーマを提案できる

← シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
- 同じテーマ→年代によっても変わりますよね。賛成です

場所・部屋・機材

- 印刷室（活動に必要な書類が）
- 活動者が使える格安なコピーや印刷
- 機器（プロジェクター、パソコン）の貸し出し
- 自由に使える会議室
- 掲示版「こんなお手伝いが欲しいです」「こんな活動してます」自由に見てわかりやすいもの
- 生→人→変化→対応→信頼→サポートセンター

← 市民ができること
- 使用料の払い（安価）

サテライト

- 各校区にサテライト
- わざわざ福祉センターまで来てられない
- 専門性が必要な相談は本部（福祉C）

← 市民ができること
- 各校区に市民活動支援サポーター、コーディネーターを地域から出す（推薦をもらって研修）→設置すること！！
- 市民は立ち上がればサテライトセンターを盛り上げる

← シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
- 最終的にはコレですよね！
- 年令を重ねると福祉Cまでくるのはつらいかも･･･近くがいいですよね！
- 空き教室、公民館利用率　有効活用

つながり

- 同じような活動をしている人と話し合ったり、交流できる機会がほしい→交流スペースを設置
- 今の困窮者支援などの充実。誰もが集えるティーコーナー
- スポンサーとの出会いカフェ
- 誰でも入れるカフェ
- 交流スペース（コミュニティカフェ）
- グループとの出会い
- スポーツ交流
- パーティー
- 障害者との交流（スポーツ、パーティー）
- 横のつながりをもっともちたい

← 市民ができること
- カフェに参加すること

広報

- 新福祉センターの利用方法他を市民に広くひろめてほしい

← 市民ができること
- 社協ーサポートs　岸和田市民への情報をもっと広めていく
- SNSでの情報発信　資料などは費用がかかる　SNSは情報が早いうえ、費用がかからない。拡散には一番良い

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

＜テーマ型ボランティアグループの皆さん①＞

施設の設備
印刷作業室（USBのデータを印刷できる、大判印刷）
ミーティングスペース
福祉Sを無料使用できるようにしてほしい
掲示ボード（市民活動に関する情報の提供）
資料コーナー（資料や書籍を読むためのスペース）
プレイルーム（子連れ、授乳室）
健康増進用としての遊具、呼吸器体操の為、吹矢などおいてほしい
相談カウンター、相談室（スタッフや専門家が一緒に解決方法を考える）
相談カウンターを設置してほしい
団体ロッカー
パンフレットラック
展示コーナー（イベントやセミナー開催の案内）
コミュニケーションボード（助けます、助けられます、あげます、もらいます、困ってます、解決します、聞きたい、教えたい）
センターの入口に書き込みできるボードを置いて！
小会議の出来るミーティングスペースを作って！

市民ができること
「困りごと」に対する「アイディア」の提供ができる！

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
これはサポセンの仕事？個人レベルのハードは設置しない方がいいのでは？
掲示板があってもいいね！

＜テーマ型ボランティアグループの皆さん①＞

知りたい・アイディア
どんな市民活動団体があるのか、どんな活動をしているのか知りたい！
老人クラブは今までと違った催しをしたい（アイディアが欲しい）
「楽しいこと！」を創り出す！
子ども会の役員だけでなく親全体の「親会」を催す
ボランティアに若い人が入らない　どのようにしているのか知りたい

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
PTAをまきこみますか？

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

マッチング
マッチング（仲人役、ソフト面・ハード面、人と人、場所など）
活動場所を貸してくれる人をどうやって探したらいい?→コーディネーターの設置
より多くの市民が利用できるために、無料で使わせてほしい
端末の設置（図書館で本を検索できるような機械）
空家バンク（テナント含む）
空家バンクを置いて

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
賛成！
いいアイディア！でも交渉が難しそう
空家、空企業寮の管理と貸し出しがいいですね

人材
特技を活かせる仕組み作り→特技バンク
職員さんを増やしてほしい
新しい人材が欲しい
高校生とうの意見もすいあげ、活動に興味を持たせたい
青山さんがもっといるといい
地域や団体の事情をよく知ってくれている職員さんに居て欲しい

相談
誰でも来たら話を聞いてくれる職員が欲しい
友達会して何かしようと会うときでも市民には全てに場所を貸してほしい

市民にできること
居場所を通して市民の意見を聞き伝えること
市民の相談を聞いて一日も早い解決に向け対応して頂きたい。時には行政や自治会の皆様のお力もお借りする

情報管理
あらゆるデータの一括管理
困りごとや解決方法をデータベース化して皆で共有できるようにして欲しい
ボランティアのグループ案内をホームページ等であるといい
ネットで利用申込みできるといい

市民にできること
各グループの案内文を作成
情報発信することでボランティアセンターの活動PRができる

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

＜テーマ型ボランティアの皆さん②＞

情報
情報の共有
岸和田に限らずいろんな団体を知っている
いろんな枠をこえてのつながり、情報交換
できるだけ多くの情報が集まる
岸和田のことをよく知っていること
専門職としての高い能力を持つ人
こういう団体があることを知ってもらう
誰が何を出来るか知っていることが大切

市民にできること
まずコミュニケーション能力を高める
市民が持ってる人的資源の活用

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
「情報の共有」はとても大事！
うちの団体の気づきが他の団体の気づきにもつながるから

つなげる
子育て世代をサポートする機能
人と人が出会える場所
つながり
求める者と求められる者とのつながり
グループとグループ、人と人とをつなぐ
自分のグループ、私をよく知ってくれていること
活動の報告ができる場
広い意味でのサポートセンター

市民にできること
市民活動サポートセンターをいつも見守る
多分事務的な難しいこと以外はできるかな？
オーバーワークになったら市民に相談してほしい
つなげてもらうだけでなく、ボラセンと人をつなげる
出かけて行く　行けば誰かと出会い話せる。情報を共有できる
高齢者も元気な姿を見せる
サポートセンターの本来の仕事に専念できるようなことをしたい

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
子育て世代をサポートすることにより市民活動につながる人材の育成ができる
グループからの情報提供が必要では？

お金・資金
寄付金がいる
資金不足
活動資金の問題
活動費の支援
助成金の手続き

市民にできること
リサイクルボード　ゆずる・もらうの物々交換

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
資金不足解消のためにサポートセンターに求めることは？

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

広報
広報活動
社会人に対するボランティア教育
ボランティアに対する教育（幼少期からの）

市民にできること
メディアを通して市民活動サポートセンターのPRをしたい
「ボランティアだより岸和田」読んでください、Vグループの情報あります
口コミでサポートセンターを知らせる
「いつでも相談にのりますよ」の雰囲気を出してね！
行政に対して言いたいことがあったらみんなで一緒に訴える運動します

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
教育（上から目線？）→共育とかに置き換えて表現する方が仲間感がある
人材確保のためにも広報スキルは必要ですね

場所
瓦礫施設や練習場所の提供
グループの人の高齢化
会員の高齢化→親・配偶者・孫の世話→役員の役割分担必要
イベントができる場の提供
働いていても集まれる
できるだけ長い時間、場所があいている
全ての市民の居場所がいる
コラボラみたいな機会

市民にできること
リビングが一角にあるような

ヒント・答え・具体的なアドバイス
問題がおきた時の解決策

市民にできること
ボランティアとての体験を話す
職員の仕事の手助け
相談しにくる人に対しアドバイスをすること

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

<企業の皆さん>

ネットでつなぐ
情報の受発信
様々な情報の掲示板
市民主体の方が拡散しやすい
社協は一参加者であってほしい
ネットのシステム
SNS　市民の距離を縮める
チラシなど周知のルートが増える
ハード面

市民にできること
スマホ普及(個人ベースで)

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
個人情報のケアは？

市民活動の周知
「市民活動」を市民へ広げる(社協、VC･･･そもそもみんな知らない)
市民活動を様々な主体が参加する活動を通して、市民に「見せる」
「市民活動」の定義を示し続けるシステム
市民活動サポセンとしてのユニフォームをみんなで着て活動する

市民にできること
「市民コーディネーター」として参加

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
イベントなどするということ？

各々の特技・強みを活かす
学び･遊びの出前(のコーディネート)「大人×子供がない」
学び･遊びのグッズ　特技一覧システム
宿題･工作･遊びのプログラム提案
善意銀行のような本来の意味での「バンク」の必要性で解決できそう
ビジネス界の人たちが集まれる場
企業家の取り組みをアピールしてほしい
「市民活動サポートセンター所属」という肩書(ステータス)
フランクに情報収集･発信
特技をいかすだけでいい
特技バンク(ボランティア･ビジネス含む)
ビジネス一覧(見える化)　社会資源
会社として特技で必要とされたい(呼ばれたい)
市民からの法律相談

市民にできること
自分野での考え方を伝えることでグローバルな市民活動サポセンへ
お金の「稼ぎ方」をリアルにレクチャーする(失敗談含む)
活動スペースの提供(部屋としてテーブルとして)中立的な意味も
他団体どうしのケンカの仲裁を「市民コーディネーター」として行う
市民活動者からの法律相談

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
スポンサーになっていただける？ボランティアのために
ビジネス交流会化しない？(営利目的の排除を)
企業家としてする市民活動と営利活動との線引きは？
ビジネス交流会化しない？(営利目的の排除を)
企業家としてする市民活動と営利活動との線引きは？

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

国際
世界中とのつながりを広げれる場
世界中から人が来る枠組みを作る場（地域を見る→世界を見た視点へ）
国際的な視点でのサポート
海外との窓口として機能
日・中・ハングル・英の4か国語でのサポート（周知）

市民にできること
外国人として市民活動に参加すると国際性をアピールできる
Civic Activities suport Center (CASC)
他団体での失敗例をもちこむ

リアルにつなぐ
飛び込みの協力者は不安・・・
多様な主体、異業種の集まりを主催（団体主催のものは敷居が高い）
世代を問わず学び合い　交流の場
つなぎ
各自所属団体間の交流（情報・スキルのシェア）のコーディネート
チャンネルとしての機能
他の主体を知るきっかけづくり（何を提供してくれるのか？）
市民の「かけこみ寺」としての機能

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
具体的にどんなことが？
イベントのこと？

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

<ＮＰＯ法人の皆さん>

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
ネットは？

市民にできること
専門職や行政では手の届かない困りごとやすきまを私たちNPOとしてかかわっていきたい
できることをできる時にする（市民）
知り得た情報を持っていく（秘密情報に注意）
情報をよせる
情報提供　市民の側から
広報してもらえる条件を作ってクリアしたところの広報してもらえる

広報
SNSでの発信のサポート
広報の仕方の講座
市の広報が月一なのでいっしょに合体して月2発行できたらいいな
サポートセンターでの広報紙を発行

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
行政とつながって具体的にどんなことをしたい？
メディアの力は大きい！
スポンサーはどこにいる？
資金が余りすぎた時は？
「行って楽しい」って具体的にどんな感じ？
新福祉センターの使用は無料でお願い。ゼッタイに！

市民にできること
いち市民としては、身近な困りごとなどをご近所から何かできたらいいと思っている。そこから専門職や行政へつなぐ
事情知ってる人（地域の状況、組織の状況）
要望、してほしいことを伝える
つなぎ役としてアンテナをはっていたい
提案とお手伝いと参加
積極的に参加、他の人を誘う
知り合いにサポートセンターや講座などお勧めする

人材
市役所と社協の連携　若い職員との交流
行政とのつながりを支援してほしい
地域との連携をつないでほしい（中間支援）
幅広い事に対応できる職員の設置
地域の人材とつなぐ　団体のことも両方わかっている人（職員）
運営などのアドバイスやサポート充実の支援（専門職の配置）
スキルアップ研修
会計の仕方についての勉強会、相談
テレ岸とかラヂオとかと協力してコーナーで啓発する

市民にできること
時間がある時に立ち寄る
ルス番をする
市民として協力する
市民目線でのお手伝い　忙しい職員さんのサポート
サポートセンターへのボランティア
サポートセンターの活動に協力する

場所
行って楽しいところ　ふらっと立ち寄れる雰囲気
市民活動に関する本、DVDなどをおいてほしい
印刷などが安くできる
安価または無償で使える場所の提供
掲示板に団体の紹介をする場所がほしい
困ってます、手伝えますの掲示板
貸し館の使いやすさ（有料含む）
他団体とつながる機会、場所の提供

資金
資金調達についての講座
助成金等情報・支援　サポート
助成金の取得の方法
企業の寄付・助成金の獲得の相談

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

＜地縁型組織の皆さん＞

予算
企業、個人からの寄付を集める
助成金の案内

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
予算をどのようにするのか教えて下さい
寄付を集めるためのアイディアをいろんな人から募集する仕組み作り
使わなくなった物の提供

情報
情報収集、情報発信
情報発信できる機能（チラシやポスターをおいてもらえる）
公民館、町会館の空き室情報の一元化
困りごと相談、子育て、介護、自分の活動、自分が何に困ってるか教えて欲しい
老人会の楽しい活動の紹介

市民にできること
サポートセンター情報発信
サポートセンターへの情報の伝達
地域情報を提供できる人の紹介（歴史的・地勢的なもの）

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
情報を一元的に管理することにより、あらゆるマッチングもしやすくなる（今は情報にバラバラにある）
新しいユニークな取り組みを提案する？
目で見てわかる情報発信（テレビ画面など設置しても！）

場所
ボランティアの部活室
公共施設も含めた活動場所の確保
長時間使用できるようにして欲しい
地域のカフェ
相談員を常に配置
あらゆる相談窓口

市民にできること
公民館を使いやすくしてほしいと言い続ける

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
部活室おもしろい！もう少し具体的に教えてください）
地域のカフェが活発になるとあらゆる人にとって良い環境が出来ていくと思います。

2017年2月18日(土)　市民活動サポートセンター（仮称）設置に向けた市民ワークショップ　第２日目　グループ討議まとめ

交流・つながりづくり
町地域ネットワーク
実例を発表する場を設けて欲しい
ボランティア団体のコーディネーター
まちづくりと地域開発の是非を考える際、助言できる方々との橋渡し
専門と専門のつながりを
学び、福祉、産業、地域をつなげる役割
地縁組織と外部組織の連携支援（旧態への衝撃がほしい）

市民にできること
テーマ型ボランティアの受け入れが出来る
出番作りの土俵の提供
地縁組織の困りごとを解決するテーマ型組織につなげる

専門職の配置について
専門職を配置してほしい
専門職の配置

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
具体的にどういう「職」の感じですか？

市民の参加
市民が参加できる体制（運営委員会等）

市民にできること
運営委員会仲間に伝える

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
運営委員会は必須ですね！

組織運営支援
町会役員の選抜、指名
地縁組織の活性化支援（市民協のマンネリ化）
町会組織（婦人会、老人会）の再組織支援ができるセンターを
町会加入サポート
人材確保（登録制）
地域の中年層の教育（書記）（地域の担い手として）

市民にできること
協力できる人only　自分が手伝いできる内容の登録
町会で意義が認められれば人員の動員ができる
市民活動人材バンク

シェアタイムでの共感コメントや質問メッセージ
町会加入者を増やすためのサポートセンターと地域の町会、自治会の役割分担は?

⑻ 実行委員会開催概要

①　日時　平成２８年１０月１８日（火）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　有志の集まり　サポートセンター設置についての情報交換

②　日時　平成２８年１１月１５日（火）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　有志の集まり　情報交換　当実行委員会立ち上げの決定

③　日時　平成２８年１２月１９日（月）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　正副委員長選出　事務局設置　ワークショップの概略決定

④　日時　平成２９年1月１０日（火）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　ワークショップ開催要項の決定　チラシ原案の決定

⑤　日時　平成２９年2月6日（月）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　ワークショップ１日目の詳細決定　役割分担決定

⑥　日時　平成２９年2月１２日（日）午後4時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター１階大会議室の一角
　　概要　ワークショップ１日目直前　最終確認　討議の進め方の確認

⑦　日時　平成２９年2月１３日（月）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター１階大会議室の半分
　　概要　ワークショップ１日目の結果のまとめ・評価
　　　　　ワークショップ２日目の詳細決定　役割分担決定

⑧　日時　平成２９年2月１８日（日）午後1時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター２階会議室
　　概要　ワークショップ１日目直前　最終確認　討議の進め方の確認

⑨　日時　平成２９年2月２０日（月）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　ワークショップ２日目の結果のまとめ・評価
　　　　　ワークショップ全体の総括・評価
　　　　　提言書の概略決定　提言書作成の役割分担決定

⑩　日時　平成２９年2月２７日（月）午後6時３０分から
　　場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
　　概要　各自の提言書草稿を元にした叩き台づくり
　　　　　提言書の構成決定　編集スケジュール決定

⑪　日時　平成２９年３月１３日（月）午後６時３０分から
場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
概要　提言書の推敲　改稿案決定　タイトル決定　発行日決定

⑫　日時　平成２９年３月２１日（火）午後６時３０分から
場所　岸和田市立福祉総合センター２階会議室
概要　提言書の推敲・校了　提言書編集総括

⑬　日時　平成２９年３月２７日（月）午後６時３０分から
場所　岸和田市立福祉総合センター３階教室
概要　提言書の印刷・製本　実行委員会総括

⑼ 実行委員会の様子

（資料作成：実行委員中村・青山）

実行委員からひとこと

青木　淳　（福祉団体職員）

　夜な夜な、様々な市民活動の実践者が集い「ボラセン」について熱く語り合う。この革新的なプロセスから生まれた提言書は、必ずや市民活動の世界におけるバイブルになると確信しています。

青木　美都枝　（ＮＰＯ法人ここからＫｉｔ）

　市民活動サポートセンターが岸和田市民にとって、より良いものになるお手伝いが出来ればと思い関わらせて頂きました。

青山　織衣　（岸和田市社会福祉協議会）

　岸和田のまちを元気にするためには、「わがまちを自分たちの手でよくしよう」「困ったときはお互いさまやん」と思える人をひとりでも多く増やしていくことが大事だと信じています。

　あらゆる人のまちづくりへの「参加」を支えたい。そんな決意を胸に、これからも一歩ずつ前進したいと思います。

金子　富美子　（ふれあいリビング「楽しいおうち」運営　ほっとりんく）

　市民活動サポートセンター設置に向けた重要な会議の一員に加えて頂き有り難うございました。後世に大きく花開くことを願って居ます！

川口　朋子　（岸和田市ボランティア連絡会）

　中間支援のおかげで、私の活動があったのだと、今やっと実感しました。それを声を大にして伝えたいです。

木村　和子　（岸和田市ボランティア連絡会）

　市民活動サポートセンターの重要性を学ぼうと参加しました。

　みんな笑顔で手を携えて、住み続けたい元気な街を目指して、岸和田を愛し、熱い思いを持たれた方々と関われたことに感謝しています。

　これからも素晴らしい仲間達と共に学んで行きたいです。

上月　正洋　（岸和田市ボランティア連絡会）

　これからの時代、「力のある誰かが何かを変えてくれる」ではなく、市民一人一人の熱い思いが結び合って新しいカタチを創るのだと思います。

　そういう思いを多くの方達と共有できて、心強く感じました。

　これからももっと私達自身が学んで、変わっていかなくてはならないと思います。

　ここからが、スタートです。ともに頑張りましょう。

佐藤　登志み　（個人ボランティア）

市民の相互活動が豊かに息づく岸和田のまちをめざして、多忙な時間の中、多くの知恵と希望を出し合いました。

今後実現に向けてチャレンジしていけることを願っています。

津田　尚子　（とんぼ文庫ほか）

行政が市民活動サポートセンターを設置される事への皆さんの期待の大きさを感じると同時に、共に作り上げていこうとされる意欲に、多くの学びを頂きました。ありがとうございました。

戸治野　智美　（ふれあいリビング「楽しいおうち」運営　ほっとりんく）

市民活動サポートセンター。

これこそ、今までの岸和田市に不足していた機能です。

この度ようやく岸和田市にも市民活動サポートセンターの設置が実現しました。

このサポートセンターが「市民にとって居心地が良く、つながり合い支え合える場所になり、それにより岸和田市も元気になる！」

そんなサポートセンターになる事を願っています。

中村　道彦　（個人ボランティア）

市民活動１年生ながら先輩市民活動実践者の皆さんとともにワークショップの準備をしていた時は、ひたすら無心で白球を追い続けていた中学１年野球部時代を思い起こしていましたが、こうして提言書編集に携わりながら実行委員の皆さんのトップランナーっぷりを目の当たりにした今は、実はメジャーリーグのオールスター戦に出場していたんだなあと思い直しました。

市民活動って、ほんと、カッコイイですね！

西出　秋雄　（にこにこ大芝）

全ては１９９５年1月１７日の被害を目の当たりにした時、これまでの生き方で良かったのか？ とまで強い不安を抱いたものです。この２２年間にも誰もが記憶に新しい自然災害、火災、又急速に変化する社会での悲しい出来事で、各々が将来に不安を感じているかと考えます。

普段、身の回りにある不安、悩み、思いに迅速に気付きができる、情報共有と仕組み作りが急がれるなかで、行政、専門職、企業、市民…が協力し合う場作りが市民活動サポートセンターとして形になり、一歩前進！市民の繋がり、元気作りに有効です。

岸和田市の素晴らしい未来に、拍手喝采！

西村　平和　（岸和田市町会連合会）

町民の顔は浮かびますが市民は漠然としていてワークショップも実行委員会も緊張しました。でも、日頃、町会で活動していることや困ったことの大部分が共通した課題であったと気づきました。様々な方の着想が新鮮でしたし、そんな幅広さを持ったサポートセンターを作りたいです。

長谷川　秀美　（ＮＰＯ法人ここからＫｉｔ）

　今こそ必要とされている市民活動サポートセンター。
　絵に描いた餅にならないよう、私たち市民のできること、行政・企業・地域ができることを現実に描いていきましょう！

原口　正彰　（リビングほしがおか）

　市民活動サポートセンター設置に向けた提言書作成に参加して。
　この度の行政による市民活動サポートセンター設置は岸和田市で市民活動をする人達にとっては画期的なことだと大変よろこんでいます。
　また市民の手で提言書を作成する事も画期的ではないでしょうか、岸和田市の発展は市民活動が活発になる事だとおもいます。
　今後も地域の市民活動家として、岸和田市の発展の為頑張ります。

平松　重美　（ＮＰＯ法人ＣＡＰいずみー暴力防止・人権ネット）

　こんなにたくさんの人がサポートセンターについて真剣に議論して、この提言ができました。岸和田の市民も捨てたものじゃないなあ、と思いました。生みの苦しみもありますが、生まれてからもいいものに育てていくのは私たち市民の力ですよね。

森山　久美子　（個人ボランティア）

　アツいメンバーの、アツい言葉で、アツいタマシイこめました！
　市民パワーをぶち込んで、大好きな岸和田市をもっと元気に！！
　この熱冷ますことなく、この声伝えて、さらに広がって、たくさんの笑顔につながりますように。

発行日　　　平成２９年3月２7日

編集･発行　市民活動サポートセンター設置に向けた
市民ワークショップ実行委員会

協力　　　　岸和田市自治振興課

事務局　　　岸和田市ボランティア連絡会
大阪府岸和田市野田町１丁目５番５号
（岸和田市ボランティアセンター内）
電話 072-430-3366